

宮前区とパラスポーツ

障がいのあるトップアスリートが出場できる世界最高峰の国際競技大会である「パラリンピック」東京2020パラリンピック競技大会が2021年8月24日から9月5日まで開催され、ハンディキャップを乗り越えて競技する姿に心を打たれ記憶に残っている方も多いのではないのでしょうか？

宮前区でも「パラスポーツ」を体験する機会がたくさんあります。「自分は健常だから関係無い」と言わずに、全ての人と一緒に楽しくするスポーツでもあるので、みなさんも是非挑戦してみてください。

パラリンピックの聖火

パラリンピックの聖火リレーは「パラリンピック聖火はみんなのものであり、パラリンピックを応援する全ての人の熱意が集まる事で聖火を生み出す」というIPC(国際パラリンピック委員会)の理念に基づいて開催されます。パラリンピックの聖火はイギリスのストーク・マンデビルと開催国各地の複数個所で採火された炎から生み出されます。

東京2020パラリンピック競技大会で灯されていた聖火の一部に、ここ「宮前区の火」が入っていたことをご存じでしたか？



宮前区の火 採火式の模様(写真上)

～宮前区の火～

2021年8月13日に宮前市民広場で「宮前区の火 採火式」が開催されました。採火者はアンプティサッカー(上・下肢切断障がい者サッカー)選手の石井賢さん(犬蔵中3年)が務めました。雨の中でしたが市民広場の中央には聖火台が設置され石井選手が聖火台から宮前区の聖火を採火しました。「行政としても障がい者の方の活躍を支援するとともに、パラムーブメントの機運を高めたい」と区担当者。

石井さんは「普通では選ばれない採火式に参加できてうれしい。これからもアンプティサッカーを頑張り、いろんな人に知ってもらえるようにしていきたい」と抱負を語りました。

「宮前区の火」は、翌日、等々力陸上競技場前の広場で開催された市の採火式に他6区の火と共に集められ、「かわさきの火」となりました。市の採火式には、宮前区代表として、スポーツ推進委員の古川由美子さんも参加しました。その後、「かわさきの火」は「ともに生きる社会かながわの火」(神奈川県火)の一部となり、最終的には「パラリンピックの聖火」としてリレーされ、大会期間中、聖火台で灯されました。



川崎市聖火フェスティバルの模様(写真上)



川崎市採火式のダイジェストを視聴してみたい方は



川崎市内各区の採火式の様子を視聴してみたい方は



YouTube「川崎市チャンネル」へリンクします。

宮前区とオリパラ東京大会

パラを盛り上げよう

宮前区役所では、パラリンピックを契機に、川崎市内ゆかりのパラ選手の紹介やパラ競技を説明する展示を、区役所2階ロビーで実施しました。

採火式で活用する選手への熱い応援メッセージも多く集まり、式典のなかで紹介されました。

また、競技を説明する展示では競技のルールや見どころを紹介しており、多くの人の関心や興味をひいていました。



宮前区役所内展示の模様(写真上)

感動をシェア

川崎市は英国のホストタウンとして、東京2020大会へ出場した英国代表チームの事前キャンプを受け入れました。

大会終了後、英国代表チームから寄贈された記念品や、練習風景の写真パネルなどを市内の商業施設や7区の公共施設等において展示する「KAWASAKI is GREAT ～東京2020オリンピック・パラリンピック 英国川崎キャンプ記念巡回展～」が開催され、宮前区では区役所2階ロビーで展示が行われ、多くの



宮前区役所での展示の模様(写真上)

人とその感動を分かち合うことができました。

この巡回展は、コロナ禍により、選手間との直接的な交流が実施できなかったため、多くの市民の皆様にも、英国から“過去最高の事前キャンプ地”と称賛いただいた“川崎のおもてなし”の雰囲気を知っていただき、東京2020大会の感動の共有やシビックプライドの醸成につなげようという思いで開催されました。



ソーシャルディスタンスをとりながら交流する英国サッカー女子チームとボランティア(写真上)



英国キャンプボランティアスタッフとして参加した宮前区在住の香川昇さん(左)鈴木照子さん(右)